

# 新聞は言語活動の宝庫 ～読解力・表現力を鍛えよう～

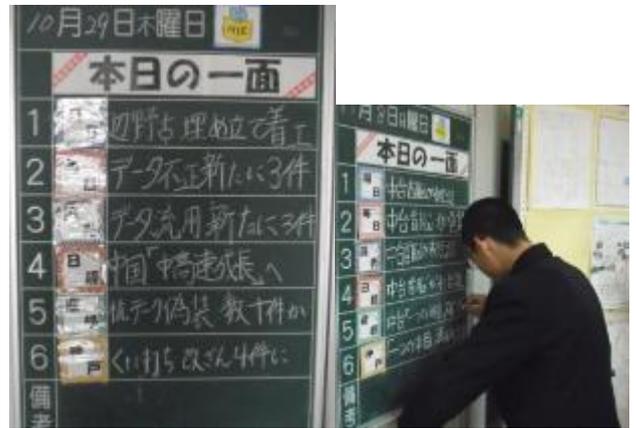
姫路市立菅野中学校 校長 曾根 進

教諭 山内 亜美

## 1. 実践の概要

本校は、昨年度からNIE実践指定を受け、新聞を活用した実践に取り組んできた。

本年度は、主に2学年を対象にさまざまな言語活動を通して、読解力と表現力を鍛えることを目標に、総合的な学習や国語科、朝学習の時間を使ってNIE実践を行った。教室前のホールに6紙の新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。



### (2) 毎日NIE

1カ月ごとにテーマを設け、生徒は登校してきた順に各自で取り組んだ。毎日5分ほどでできる簡単な言語活動であるが、毎日続けることで達成感を味わう生徒もいた。カレンダー形式のワークシートを型紙に貼って机の横に掛け、いつでも取り組めるように工夫した。

#### ① 9月テーマ：「見出しマスター」

一面の見出しに適切な助詞や動詞を補い、分かりやすい日本語の文に置き換える。

例：「大村氏 ノーベル賞」

⇒「大村氏にノーベル賞が授与された」

見出しは本文の内容を簡潔にまとめ、記事の中で一番言いたいことを表す。見出しを読み取ることで記事全体の内容の理解につながった。

## 2. 実践の内容

### (1) 本日の一面

6紙の新聞の見出しを一目で比較できるように、生徒が登校の際に毎日通る場所に掲示板を設置した。見出しが重なる日、全紙見出しが異なる日とさまざまで、有志の生徒が日替わりで、楽しみながら記入していた。

生徒が新聞を読むきっかけや話題づくりに役立った。



## ②10月テーマ：「タイトル博士」

4コマ漫画を読み、ふさわしいタイトルを付ける。「起・承・転・結」で考え、作者の思いを読み取る。話題になっているニュースや季節と関連したものが多くあり、短いせりふの中から情報を正確に読み取ることが目標にした。

## ③11月テーマ：「キャッチコピー名人」

新聞広告のキャッチコピーを探し、表現の工夫(対句、韻、擬音語、擬態語、体言止め、倒置法など)を見つける。

例：「ふんわりが すっきりを お約束」

⇒擬態語

「心に音楽 耳にラジオ」⇒対句

特徴的な表現に気付くことで、自分の文章を書く際の参考になった。

## ④12月テーマ：「短文キング」

記事から熟語を抜き出し、短文を作る。できるだけ普段使わない言葉を選ぶように指導、語彙を増やすことができた。

例：集大成→この機械は10年間の集大成だ。

喜怒哀楽→彼は喜怒哀楽が激しい人だ。



毎日続けられた人には認定証を渡した。月ごとに表彰式を行い、後半になるとクラス対抗で競い合って頑張る姿が見られた。

## (3)スクラップ分析

総合の学習の時間に、毎日NIEと連動して、月別テーマを深める発展学習に取り組んだ。B4判のワークシートの左半分に各自が選んだ記事をスクラップし、右半分に問いに対しての自分の考えを書き込ませた。

### ①「見出しについて考えよう！」

- ・見出しにどんな工夫がされているか
- ・見出しが持つ役割とは

### ②「4コマ漫画を味わおう！」

- ・タイトルを付ける
- ・作者が言いたかったこと

### ③「写真を読み解こう！」

- ・写真から感じること
- ・カメラマンが伝えたかったこと

### ④「新聞広告を読み解こう！」

- ・広告主が訴えたいこと
- ・商品を買いたいと思うか。その理由は



ワークシートは、教室前ホールに掲示した。他の生徒の考えはやはり気になるようで、掲示していると生徒が集まってくるほど興味を持っていた。

#### (4)朝プリNIE

毎週金曜日、朝学習の時間にコラム欄を使ったプリントに取り組んだ。

- ・タイトルを付ける
- ・難語句の漢字練習 ・意味調べ
- ・キーワード作文  
(複数の指定された語句を用い短文を作る)
- ・要約・感想



#### (5)新聞記者派遣事業

11月19日に読売新聞姫路支局・畑夏月記者を招き、2年生を対象に「これであなたも新聞記者～分かりやすく伝えるために～」というテーマでお話を伺った。

1日に950万部も発行される新聞の記事を書くのは責任のある仕事で、一番大切なのは締め切りを守って的確に伝えることだと教えていただいた。また、記事を書く際には、5W1Hの中でも「どのように」「なぜ」というところを詳しく書く▽同じ言葉を使わないようにする▽誰でも読みやすいように柔らかい語彙にするよう心掛けている一として、「自分が納得できるまで取材を続けることが、分かりやすい文章を書く上での一番のコツである」とのお話だった。

今回の講演では、新聞教育のテーマの枠組みだけにとらわれず、職業意識を培うためのキャリア教育にもつながったように感じる。



#### 《生徒の感想》

- ・新聞がこんなにも多くの人たちの手で作られていると聞いて驚きました。5W1Hを使って「文章をうまく書くコツ」は、これから文章を書くときに使っていきたいです。また、「記者になったきっかけ」など、畑記者ご自身の話も、とても新鮮でした。
- ・新聞記者の方の裏側の仕事も知ることができました。記事を書くときに「なぜ?」「どうして?」という精神を大切にされていることが分かりました。また、畑記者は日々、貴重な体験をされていて、人との出会いを大切にされていることが伝わってきました。
- ・新聞を作る時に、「どのニュースを大きくするか、どんな構成にするのか」と考えるのは大変だと思いました。とにかく締め切りが命で、新聞は多くの人々の協力や努力で出来上がっていることを知り、「記者の方々が大変な思いで作られた新聞をしっかりと読まないといけないな」という気持ちになりました。



## (6) はがき新聞

NIE実践を通して学んだことを生かすために「はがき新聞」の作成に取り組んだ。読んでもらう人に伝わるよう、見出しや構成を工夫していた。見出しに表現技法を使うことで、読み手の興味を誘おうとしていた生徒も多くいた。その上、挿入するイラストや配色も考え、見た目にもきれいなこだわりのはがき新聞に仕上がった。



↑国語『食の世界遺産』

↑国語『走れメロス』



↑国語『言葉のレポート』 ↑総合『校外学習』

出来上がったはがき新聞は学年の先生方や校長先生にも目を通していただき、「〇〇先生賞」と名付けて掲示した。人に読んでもらえることで相手意識が育ち、より丁寧に分かりやすく書こうという意識の高まりを感じた。また、継続的にはがき新聞を書くことで、それぞれが

工夫し、趣向を凝らした作品が増えた。

## 3. 実践の感想と今後の課題

### (1) 生徒の感想から

- 新聞はテレビのニュースより詳しく書いてあって、いつでもどこでも読めると思いました。新聞は情報の固まりだと思いました。
- NIEを通して新聞をいろいろな角度から見ることができました。それぞれの楽しみ方や読み方があり、とても楽しかったです。
- 新聞が身近な存在であることに気がきました。私たちにさまざまな情報を届けてくれる大切な情報源だと思いました。
- 新聞は見出しを読むだけでも大まかな内容が分かります。でも、その見出しを見るともっと詳しく知りたいと記事に興味を持ちます。そんなところが新聞の魅力だと感じました。

### (2) 今後の課題

初めは、「新聞は難しくて分からない」「興味がない」とアンケートで答えていた生徒も、継続的に取り組みを進める中で、新聞の楽しみ方に気付くことができた。自分の知らない言葉に触れ、世の中の情報と向き合っていく中で、言語活動に意欲的に励む生徒の姿が見られた。

これからも、さまざまな情報を的確につかむ読解力と豊かな表現力を培う活動を継続していきたい。

